

府中市の緑の将来像と目標

1 緑の将来像

(1) 将来都市像

本市の将来都市像は、「第6次府中市総合計画」において、市民がまちづくりに主体的に参加しながら、相互に尊重し協力し合い、家族や地域でのつながりを大切にし、ふるさと府中の歴史・文化や自然環境を守り愛着を持って、安全安心で健やかに暮らすことを基本とし、『みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち ～みどり・文化・にぎわいのある洗練された都市を目指して～』としています。

本計画は、緑の整備、保全、活用を通じ、目指すべき都市の姿を実現するための計画であることから、将来都市像は、総合計画に定める『みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち』とします。

<将来都市像>

みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち
～みどり・文化・にぎわいのある洗練された都市を目指して～

(2) 計画テーマ

私たちは幼いころより、公園での遊びを通じて社会ルールを認識したり、通勤・通学路にある緑に四季を感じて安らぎを覚えたり、日々の食事を通じて農の大切さを学んだり、普段の生活の中で、緑から多くのことを学び、そして育てられてきました。また、生物も緑を生息空間とすることで育てられ、種子や花粉を運ぶことで緑を育てていきます。

私たちや生物の様々な働きかけが緑を育てており、私たちと緑は、「育てられ」「育てる」といった密接な関係にあると考えます。

このため、府中市では、私たちと緑の関係を「緑育（りょくいく）」と名付けてこれをキーワードに、計画のテーマを『緑に育てられ、緑を育てるまちづくり』と掲げ、将来都市像である「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」の実現を目指すこととします。

<計画テーマ>

緑に育てられ 緑を育てる「緑育」のまちづくり

（３）将来目標

府中市はこれまで、緑豊かな都市環境の創出を目指し、多くの緑を育ててきました。その結果、都市公園はほぼ市域全域を誘致圏とすることができており、けやき並木を始めとした様々な緑は、市域の約３割を覆うまでに至りました。

また、府中市の緑に関する市民アンケート調査結果（平成 29 年度実施）においても、７割以上の方が緑の量が多いと感じられるまでに至り、量の充足への取り組みは一定の成果を挙げられたと考えます。

そのため、本計画では、将来都市像である「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」を実現するための新たな緑の将来目標として、以下の目標を設定します。

＜緑の将来目標（平成 40 年度）＞

公園や都市緑化で緑あふれるまちとしての市民満足度を、
「76.6%」（6.0%向上）以上とすることを目標とします。

（基準：平成 28 年度 市民意識調査結果「70.6%」）

■ 緑確保の指標

指標	現状 (平成 28 年 3 月)	計画年次 (平成 40 年 3 月)
緑被率	29.52% (868.63ha)	※精査中
緑地率	25.37% (746.58ha)	※精査中
みどり率	38.63% (1,136.78ha)	※精査中
人口 1 人あたりの 都市公園面積 (都市公園面積／人口)	6.86 m ² (178.35ha)	※精査中
人口	259,748 人	259,309 人
府中市面積	2943.0ha	

注）人口は、住民基本台帳人口と外国人登録人口の合計。

平成 40 年人口は、国立社会保障・人口問題研究所 将来人口推計データ（平成 30 年 3 月推計：出生中位・死亡中位仮定・純移動考慮）より引用。

指標	説明
緑被率	「緑被地」とは、上空から見たときに、樹木・樹林、草地、農地など、植物で覆われた土地のことで、本市に占める割合を「緑被率」といいます。
緑地率	「緑地」とは、公園緑地等の都市施設とする緑地（都市公園、条例等の公園）制度上安定した緑地（生産緑地地区、保安林等）、社会通念上安定した緑地（社寺境内地、公開性のある施設等）のことで、本市に占める割合を「緑地率」といいます。
みどり率	「みどり」とは、公園、街路樹、樹林、草地、農地、宅地内の緑（屋上緑化を含む）、河川、水路などのことで、本市に占める割合を「みどり率」といいます。

（４）緑育のまちづくりの基本目標

『緑に育てられ、緑を育てる「緑育」のまちづくり』を計画テーマとして、将来都市像である「みんなで創る 笑顔あふれる 住みよいまち」を実現するため、次の基本目標を定めます。

基本目標①：協働の視点の目標

みんなで府中の緑を守り育てよう

持続的に緑を守り育てていくためには、緑に関わる人々を増やし、自発的な活動を促すことが大切です。緑に接することで「緑への愛着」が生まれ、育てる活動に参加することで「人と人とのつながり」が芽生え、「まちの緑は自分たちで守り育てる」という気持ちが醸成され则认为ます。

市民団体やNPO法人、ボランティア、民間事業者等の様々なまちづくりの主体と行政が「協働」し、緑を育てる活動を通じて気持ちを育み、様々な方々とともに緑を守り育てていくことを基本目標とします。

基本目標②：緑を守り育てる視点の目標

府中を感じる緑を守り育てよう

歴史や文化を感じるけやき並木や大國魂神社、豊かな自然を残す浅間山や崖線、市内に残る農地は、人と生物が共存してきた歴史が刻まれた府中らしさを感じる重要な緑です。

これらの重要な緑を守り育てていくため、地域の特色を生かしたまち、人の生活と生きものの命が豊かに共存したまちを目指すことを基本目標とします。

基本目標③：緑化を推進する視点の目標

生活を豊かにする身近な緑を育てよう

まちなかの緑は、公園や緑地、道路だけではなく、建物や敷地の中といった場所にも存在しており、普段の生活の中で四季の変化を感じさせてくれるなど、生活を豊かにしてくれる身近な自然環境です。

このような身近な緑を増やしていくため、公園・緑地などの整備だけでなく、身近な場所の緑化に取り組むことを、基本目標とします。

基本目標④：緑地を創出する視点の目標

安心・安全な緑地を創り育てよう

緑地は、震災時における避難場所や延焼を防止するオープンスペースとしての機能を有する、安心・安全をもたらしてくれる重要な緑です。また、次世代を担う子どもたちが安心・安全な空間で、緑を通じて学び・育てられる機会を創出する大切な緑でもあります。

様々な恩恵をもたらしてくる緑地を守り育てつづけるため、時代に適応した、適切な整備・維持管理・更新・運用等に取り組むことを基本目標とします。

2 「緑育のまち」の将来構造（水と緑のネットワーク形成方針）

市内には、崖線や浅間山などの緑地、多摩川や用水などの水辺、馬場大門のケヤキ並木や大國魂神社をはじめとする寺社林、地域に残る樹木・樹林など、歴史や文化をかもし出す自然環境が残されています。また、これらの緑を生息空間とする多くの生き物も確認されるなど、自然の豊かさは本市の大きな魅力となっています。

『緑に育てられ 緑を育てる「緑育」のまちづくり』によって実現される、まちの将来構造は、こうした水や緑が持つ様々な機能をより高めることが重要となります。

このため、「水と緑のネットワークの形成」を基本的な考え方とし、郷土の森公園などを中心とした拠点整備を進めるとともに、府中崖線や多摩川を軸とし、これらを通田川緑道やニケ村緑道などの緑道・遊歩道、さらには、東八道路や桜通りなど街路樹のある道路などで結ぶことによって、「緑育のまち」の将来構造を構築することとします。

また、水と緑のネットワークの形成は、生き物の生息環境を保全することを目的に、生き物の生息空間の確保とその移動経路であるコリドーの形成に配慮します。

（１）緑の拠点

緑の豊かさや美しさを感じられ、かつ安全で快適に住める緑のまちづくりを進めるため、「緑の機能」をもとに、11の区域を「緑の拠点」と位置づけます。

【緑の拠点（11の区域）】

<緑の中核的な拠点>

本市を代表するまとまりのある緑や、特徴的な緑の空間は、広域的な緑の拠点となるよう、「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

●郷土の森公園周辺

各種の文化・スポーツ施設が集積し、多くの市民に親しまれている大規模な公園であり、府中市水と緑のネットワーク拠点整備実施計画によって、さらに機能の拡充が進められることから、ここを「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

●けやき並木周辺

市の表玄関である府中駅を核に中心市街地が形成され、馬場大門のケヤキ並木や大國魂神社など、本市の歴史・文化を伝える緑が残されていることや、水と緑のネットワークの要の位置にあることから、ここを「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

●府中の森公園周辺

中心市街地に近接する地域にあり、府中市美術館や野球場といった、文化施設やスポーツ施設など、多様な機能を持つ総合公園が整備されていることから、ここを「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

●浅間山公園周辺

市内で唯一の「山」であり、ムサシノキスゲをはじめとする貴重な植物などがみられ、隣接する多磨霊園と一体となってまとまりのある武蔵野の雑木林が残されていることから、ここを「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

●武蔵野公園周辺(国分寺崖線)

国分寺崖線の緑や野川の水辺と一体となった規模の大きな公園であり、都立公園として、今後も拡充整備が見込まれることから、ここを「緑の中核的な拠点」と位置づけます。

<地域における緑の拠点>

近隣住民に親しまれている地域の核となる公園や、地域の特徴的な緑の空間は、地域の緑の拠点となるよう、これらを含む一体を「地域における緑の拠点」と位置づけます。

●武蔵台公園周辺(国分寺崖線)

本市の北西部を代表する緑の空間として、武蔵台公園を中心に都立府中病院や武蔵台文化センターなどの各施設と国分寺崖線に残る緑が一体となった良好な環境が形成されており、景観の保全・活用が期待される区域であることから、ここを「地域における緑の拠点」と位置づけます。

●西府崖線周辺

西府崖線を中心に、西府文化センターや周辺の公園などと一体となって市西部地域の拠点と位置づけられるとともに、これに沿って流れる水路（府中用水）などは、特徴的な緑の空間であることから、ここを「地域における緑の拠点」として位置づけます。

●四谷樹林地周辺

地域に残る樹林や農地の風景は、本市の原風景を今に伝える数少ない区域です。こうした地域風景を守り、生かした緑のまちづくりが期待されることから、ここを「地域における緑の拠点」と位置づけます。

●小柳公園周辺

本市の南東部の核となる公園として様々な役割が期待されており、また、水再生センター及び多摩川河川敷と一体となった、緑の空間の保全・活用も望まれることから、ここを「地域における緑の拠点」として位置づけます。

●武蔵野の森公園周辺

スポーツ・レクリエーションの拠点として親しまれ、隣接する教育施設の緑と一体となって、文化の香り高い景観が形成されていることから、ここを「地域における緑の拠点」と位置づけます。

●東京農工大学周辺

緑をはじめ、広く社会や自然環境が調和した科学技術の進展への貢献を理念とした学術研究機関が立地し、またキャンパスには豊かな自然環境が形成されていることから、ここを「地域における緑の拠点」と位置づけます。

（２）農地が集積するエリア

農地が市街地内に多く残る四谷や住吉町などの地区については、農地と低層住宅が調和・共存していることから、良好な居住環境と営農環境の保全と創出をより推進していく地区として、ここを位置づけます。

（３）水と緑の軸

府中崖線や多摩川は、本市を東西に横断する緑の骨格となることから、これらを「水と緑の軸」と位置づけます。

<水と緑の軸>

●府中崖線

本市のほぼ中央を東西に樹木が連なる「府中崖線」は、本市を代表する特徴的な緑のひとつであり、緑ゆたかな景観を形成していることから、ここを「水と緑の軸」と位置づけます。

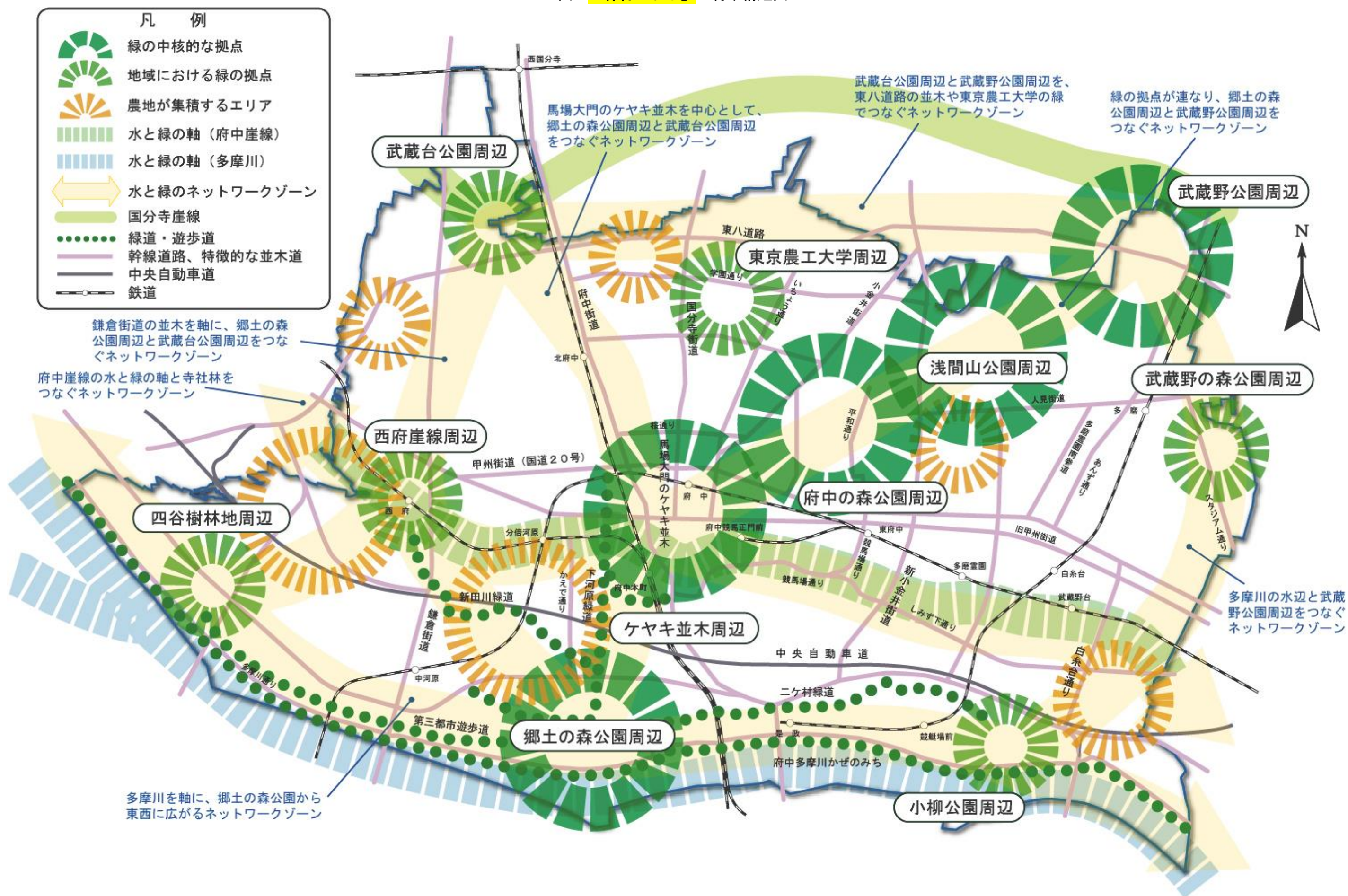
●多摩川

多摩川は、本市の南端、四谷から押立町までの約9kmにわたって水辺を形成し、その河川敷は広大な緑の空間となっていることから、ここを「水と緑の軸」と位置づけます。

（４）水と緑のネットワークゾーン

緑の拠点と水と緑の軸を相互に結ぶ緑道や遊歩道、街路樹のある道路を中心とし、周辺の公園・緑地や宅地内の緑を含めた区域を「水と緑のネットワークゾーン」と位置づけます。

図 「緑育のまち」の将来構造図

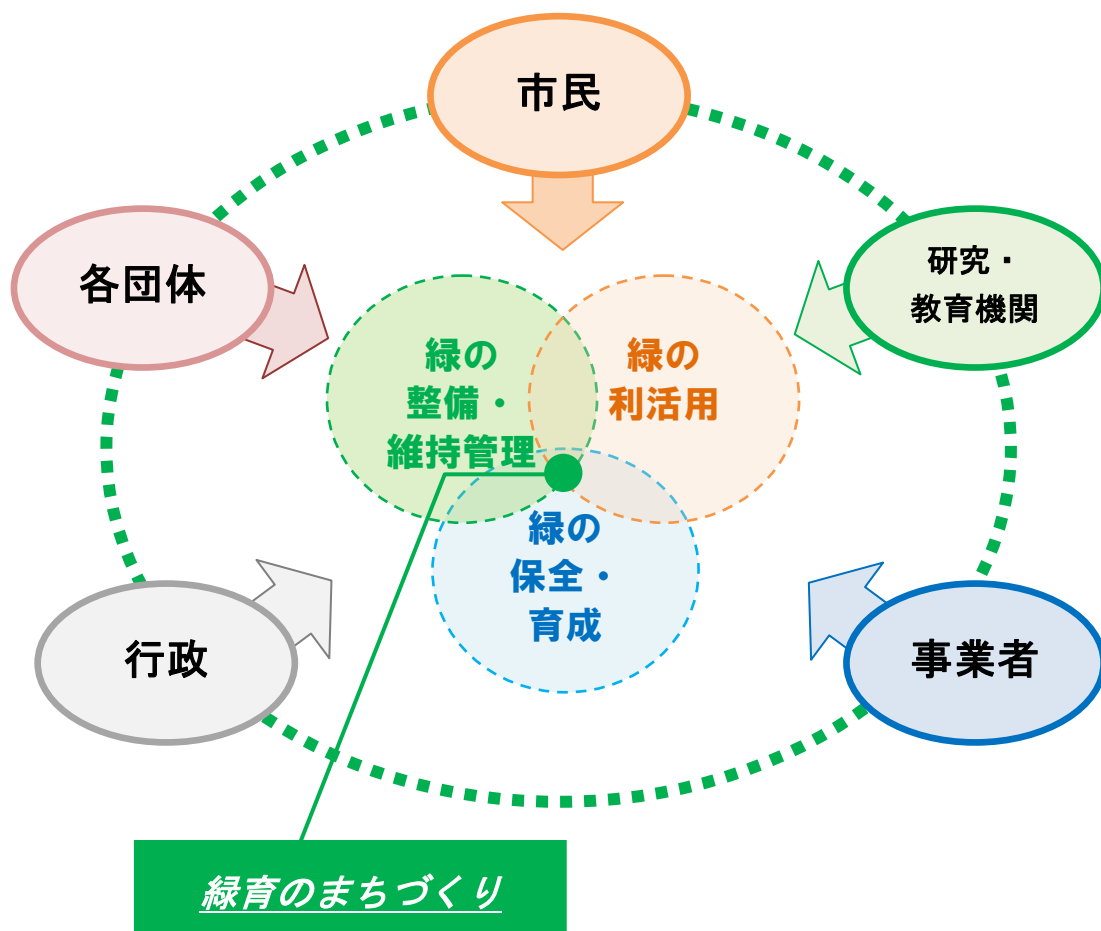


3 緑育のまちづくりの施策体系

「緑育のまち」の将来像を実現するため、「協働」「緑を守り育てる」「緑地を創出する」「緑化を推進する」の視点から設定した基本目標を踏まえ、その実現に向けた施策の体系を次の通りに設定します。

施策の実施にあたっては、緑を暮らしの中でより身近にしていくために、市民や各団体、事業者や研究・教育機関、そして行政それぞれが主役となり、緑や緑地の「整備・維持管理」「保全・育成」「利活用」について協働することで、「緑育のまちづくり」に取り組むことを基本とします。

図 協働のイメージ



基本目標①：協働の視点の目標

みんなで府中の緑を守り育てよう

＜具体的な施策内容については、次回以降にご協議頂きます。＞

基本方針1：……

施策1：……

施策2：……

基本目標②：緑を守り育てる視点の目標

府中を感じる緑を守り育てよう

＜具体的な施策内容については、次回以降にご協議頂きます。＞

基本方針1：……

施策1：……

施策2：……

基本目標③：緑化を推進する視点の目標

生活を豊かにする身近な緑を育てよう

＜具体的な施策内容については、次回以降にご協議頂きます。＞

基本方針1：……

施策1：……

施策2：……

基本目標④：緑地を創出する視点の目標

安心・安全な緑地を創り育てよう

＜具体的な施策内容については、次回以降にご協議頂きます。＞

基本方針1：……

施策1：……

施策2：……